

経済学演習 I

2025

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
201	経済学演習 I (安達剛)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	安達 剛
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副 題 Subtitle

経済学を用いた問題発見・解決能力を養う

授業概要 Course Outline

ミクロ経済学は知識ではなく思考の型であり、社会や日常生活の現場で活用できなければ意味がありません。ミクロ経済学やゲーム理論の授業では理論を抽象的な形で学習していますが、それを「どこで」「どのように」使うのかという技術は、理論とは別に体系的に学習して身に付ける必要があります。この演習では、討議に重点を置いた理論テキストの輪読と、現実の社会問題についてのケーススタディ、そしてフィールドワークの3つを柱として《ミクロ経済学・ゲーム理論を現場で使う技術》を習得していきます。

演習 I では、①問題をインセンティブ構造で捉える技術、②仮説を【発見・発明】に変える技術、③ミクロ経済学・ゲーム理論や統計学を使って独自の研究をする技術、の習得と習熟を目指します。ゼミ生同士の討議をメインとしたケーススタディと、研究計画の指導が中心になります。

授業の到達目標 Objectives

問題をインセンティブ構造で捉える技術について習熟する。
ミクロ経済学・ゲーム理論・統計学を用いた研究の構造について理解する。
問題を自ら見つけ、仮説を考え、検証するプロセスとその意義を学習する。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

適宜、授業内で担当教員より指示する

授業計画 Course Schedule

第1回：イントロダクション
第2～4回：インセンティブ構造で考える（反復練習）
第5～6回：仮説をみがく（反復練習）
第7～8回：簡単に検証する
第9～10回：学問を使って発見・発明をする
第11回：検証方法の学習（ミクロ経済学・ゲーム理論）
第12回：検証方法の学習（統計学）
第13回：研究計画をたてる
第14回：まとめ

教科書 Textbooks

参考文献 Reference Books

評価方法 Evaluation

	割 合 (%) Percent (%)	評 価 基 準 Description
試 験 Examinations	%	
レポ ² ート Papers	%	
平常点評価 Class Participation	100%	討議への参加度合と、輪読で使用するテキストの読み込み度合で評価する。
そ の 他 Others	%	

備考・関連URL Note・URL

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

*担当教員は、2025年度秋学期より特別研究期間となるため、演習II以降は、Zoomによる開講となります。

経済学演習 I

2025

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
202	経済学演習 I (荒木一法)	春学期	JDP 3 年以上・2 単位 EDP 2 年以上・2 単位	荒木 一法
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副 題 Subtitle

企業と家計の行動分析 (応用ミクロ経済学)

授業概要 Course Outline

(目的) 本演習は、企業と家計の行動分析を題材として、参加者の分析力とコミュニケーション能力を向上させることを主たる目的とします。

(方法) 伝統的なミクロ経済学に加えて、ゲーム理論や契約理論を具体的な分析事例を交えて学ぶことで、参加者の分析力の質を高め、幅を拡げることを試みます。また、プレゼンテーションと討論の機会をできるだけ多く確保するとともに、適宜短いレポートの提出を求め、参加者の「話す力」「書く力」の向上に努めます。

(題材の説明) 主に企業の戦略決定(投資・資金調達行動、マーケティングなど)と資金仲介者(銀行・証券会社等)の行動を分析し、時間的余裕があれば家計の消費・貯蓄・資産選択行動も扱いたいと考えています。これらのトピックをミクロ経済理論を用いて分析する文献を輪読するとともに、関連ニュースを報じる和文および英文の新聞・雑誌等の記事を題材にディスカッションをおこない理論の応用力を強化します。

(授業の進め方) 春学期は共通のテキストを使用し、参加者が担当箇所を発表していきます。例年は各人3回の発表機会があります。夏合宿では事前に設定した課題について調査し、その結果を口頭で発表するとともに、レポートとしてまとめ提出してもらいます。

(授業時間について) ゼミは、3年4年合同で月曜4時限、5時限連続で行います。

(授業以外のゼミ活動) 年間数回のペースで実務の第一線で活躍されているゲストスピーカーによる講義やゼミ卒業生も参加する勉強会を実施する予定です。講義や勉強会を通じて、ゼミ生の皆さんがあたらしい知識・視点を吸収し、将来の進路について考えるヒントを得ることを期待します。月曜4時限&5時限以外の時間に実施される活動については参加を必須とはしませんが、ゼミ生諸君はこれらの活動にも積極的に参加してください。

授業の到達目標 Objectives

- ・状況に応じたプレゼンテーションをおこなうことができる。
- ・ディスカッションにおいて、自らの考えを効果的に伝えたり、多様な意見を整理し集約したりすることができる。
- ・ミクロ経済理論の応用力を強化し、与えられた事例に即応的分析を加えることができる。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

適宜、授業内で担当教員より指示する

授業計画 Course Schedule

- 第1回：プレゼンテーションに関する留意点 (講義)
 第2回～第13回：受講生によるプレゼンテーションとディスカッション
 第14回：夏休みの課題の説明

教科書
Textbooks

2024年春学期は次の3冊を輪読しました。
花園『産業組織とビジネスの経済学』有斐閣ブックス
朝岡・砂川・岡田『ゼミナール コーポレートファイナンス』日本経済新聞出版
古川・守口・阿部『マーケティング・サイエンス入門（新版）』有斐閣アルマ

参考文献
Reference Books

適宜紹介します。

評価方法
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	0%	試験は実施しません。
レポート Papers	50%	期末レポートを評価します。
平常点評価 Class Participation	50%	プレゼンテーションの内容とディスカッションへの貢献を評価します。
その他 Others	0%	特にありません。

備考・関連URL
Note・URL

応募を検討する場合は、必ず教員によるオリエンテーション動画を視聴し、ゼミの内容・方針を確認した上で判断してください。特に、次の3科目の単位を取得済みであることを応募の前提条件としていますので注意してください。「ミクロ経済学入門」、「経済数学入門」、「ミクロ経済学Ⅰ」

また、本演習の履修が決定した場合は2023年秋学期に「ミクロ経済学Ⅱ」を必ず履修してください。

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

経済学演習 I

2025

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
203	経済学演習 I (有村俊秀)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	有村 俊秀
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副 題 Subtitle

環境経済学

授業概要 Course Outline

気候変動や生物多様性などのグローバルな環境問題、そして、日本の都市と農村が直面する環境問題を分析する環境経済学を学びます。また、関連するカーボンニュートラル政策、再生可能エネルギーなどエネルギー問題・政策についても経済学的にアプローチします。分析手法としては、ミクロ経済学や、統計学を用いた計量経済学を用います。そのため、ゼミでは統計分析・計量分析の手法も学びます。必要に応じて、コンピュータールームでの統計分析の実習も行います。春学期は、教科書の輪読を行いながら、研究活動の方法について理解を深めます。ゼミでは、欧州・米国あるいはアジアの環境政策についても学ぶ予定です。また、冬クォーターにプレ演習を行います。そこでは、本格的なゼミ活動を行うまでの準備を行います。

授業の到達目標 Objectives

本演習では、環境経済学の論文を書くことを目標としています。そのため、前半は、環境経済学の考え方を理解することを目指します。論文執筆では、定量分析をすることを目指すため、分析に必要な統計学、計量経済学の手法を修得することも目標です。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

事前の学習として、教科書を読んでください。
事後の学習としては、ゼミの発表に対するフィードバックへ毎回対応するようにしてください。

授業計画 Course Schedule

- 第1回：ガイダンス
- 第2回：教科書輪読①
- 第3回：教科書輪読②
- 第4回：ゼミ論執筆について
- 第5回：教科書輪読③
- 第6回：教科書輪読④
- 第7回：個人発表①
- 第8回：個人発表②
- 第9回：個人発表③
- 第10回：計量・データ分析入門①
- 第11回：グループ発表①
- 第12回：グループ発表②
- 第13回：グループ発表③
- 第14回：計量・データ分析入門②

教科書 Textbooks

栗山 浩一、馬奈木 俊介(2020)「環境経済学をつかむ〔第4版〕」有斐閣

参考文献
Reference Books

有村俊秀・日引 聡 (2023) 「入門 環境経済学 新版」(中央公論新社)
有村俊秀・杉野誠・鷺津明由編著 (2022)「カーボンプライシングのフロンティア：カーボンニュートラルのための制度と技術」日本評論社

評価方法
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	50%	研究論文が書けるようになる。
平常点評価 Class Participation	50%	毎回参加し、ゼミに積極的に参加する。
その他 Others	%	

備考・関連URL
Note・URL

統計学、計量経済学の知識を持っている方が望ましいですが、理論分析、環境政策の制度に関心がある人も歓迎します。

関連URL : <https://arimura.w.waseda.jp/>
<https://wasedaec2016.wixsite.com/arimura>

ゼミ履修者には、学部の環境経済学及び計量経済学の受講をお願いします。
また、2年生の間に、統計または計量関係の講義を受講してください。

「政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。
履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。
The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.
Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.
<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

経済学演習 I

2025

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
204	経済学演習 I (上田晃三)	春学期	JDP 3 年以上・2 単位 EDP 2 年以上・2 単位	上田 晃三
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副 題 Subtitle

日本の経済・物価情勢の分析：マイクロデータからの分析

授業概要 Course Outline

本演習では、最近の日本経済について、マイクロデータを用いて分析することを目的とする。

具体的に扱うマイクロデータは2つある。第1は、みずほ銀行の取引データである。これは、みずほ銀行さんと早稲田大学との間の学術交流協定に基づき利用が可能になった極めて潜在性の大きいデータである。第2は、スーパーマーケットのPOSデータである。レシート単位での買い物情報から、品目、会員ごとの価格・数量情報を観察できる。

演習では、Rを学習し、それをこれら2つのデータの分析に応用し、経済学・計量経済学の知識を活用しながら日本の経済・物価情勢についての分析を試みる。

また、経済財政白書、日銀展望レポートなどの輪読も行う

授業の到達目標 Objectives

最近の日本経済についての理解、経済学・計量経済学の理解の深化、Rプログラミングの習熟、プレゼン能力の向上

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

毎週、相応の事前準備が必要。一人一人が担当をもち責任をもった分析をすることだけでなく、各班単位でグループとして協調することも重要。

授業計画 Course Schedule

- ・コード (R) の実践
- ・データの分析
- ・プレゼン
- ・経済財政白書、日銀展望レポートなどの輪読
- ・適宜インゼミの実施

教科書 Textbooks

特になし

参考文献 Reference Books

福地純一郎、伊藤有希、「Rによる計量経済分析」、朝倉書店、2011
 一星野匡郎、田中久稔、「Rによる実証分析」、オーム社、2016
 一馬場真哉、「R言語ではじめるプログラミングとデータ分析」、ソシム、2019

評価方法 Evaluation

	割 合 (%) Percent (%)	評 価 基 準 Description
試 験 Examinations	%	
レポート Papers	%	
平常点評価 Class Participation	100%	プレゼン内容、グループ討議での貢献度合い、発表の内容。出席は必須。
そ の 他 Others	%	

備考・関連URL Note・URL

出席と毎回のゼミへの貢献（発表、質問、コメントなど）は必須。
2年次のプレゼミは、1～2回のレポート提出、3・4年生のゼミへの数回の参加を課す予定。

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。
履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

経済学演習 I

2025

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
205	経済学演習 I (荻沼隆)	春学期	JDP 3 年以上・2 単位 EDP 2 年以上・2 単位	荻沼 隆
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副 題 Subtitle

ゲーム理論と行動経済学を用いた経済分析

授業概要 Course Outline

この演習では、まず行動経済学の理論と分析手法についての基礎的な内容を学習する。その上で、限定合理性を考慮した理論的な分析のように発展的な研究を行うか、特定の分野に関するやや現実的な応用研究を行うことを目的とする。

授業の到達目標 Objectives

意思決定理論・ゲーム理論の基本的内容を理解し、それらを現実の経済問題の分析に用いることができるようにするための準備として、行動経済学の基礎的な内容と心理統計の手法の基礎を理解する。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

関連する統計学、ミクロ経済学、ゲーム理論などの基礎的な知識

授業計画 Course Schedule

第1回～第7回：行動経済学のテキストを輪読し、その内容について議論する。
第8回～第14回：心理統計のテキストを輪読し、その内容について議論する。
また、行動経済学的内容について、アンケート調査を用いた実証分析の計画をグループ分けをし、立ててもらおう。
その計画について、グループごとに発表してもらおう。

教科書 Textbooks

筒井他「行動経済学入門」東洋経済新報社
山田・村井「よくわかる心理統計」ミネルヴァ書房
豊田秀樹「紙を使わないアンケート調査入門」東京図書

その他

参考文献 Reference Books

竹村和久 「経済心理学 行動経済学の心理的基礎」 培風館
室岡 健志 「行動経済学」 日本評論社
南風原朝和 「心理統計学の基礎 統合的理解のために」 有斐閣アルマ
など。

評価方法 Evaluation

	割 合 (%) Percent (%)	評 価 基 準 Description
試 験 Examinations	%	
レポート Papers	50%	内容の正確さおよび問題設定・分析力を考慮する。
平常点評価 Class Participation	50%	出席および授業への参加度、授業内での発表を総合的に考慮する。
そ の 他 Others	%	

備考・関連URL Note・URL

学生に対する要望：行動経済学とゲーム理論に関係する演習なので、演習参加者は、事前にミクロ経済学とゲーム理論、および統計学の入門レベルの基礎知識を持っていることが望ましい。なおこの演習は、今年度は対面授業を予定している。

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

経済学演習 I

2025

整理番号 No.	科 目 名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
206	経済学演習 I (小倉義明)	春学期	JDP 3 年以上・2 単位 EDP 2 年以上・2 単位	小倉 義明
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副 題 Subtitle

金融の統計分析

授業概要 Course Outline

この演習では、金融理論の基本を参加者全員で議論しながら学ぶと同時に、自ら論理を組み立て、統計的手法でそれを立証し、文章あるいはプレゼンテーションとしてそれを表現する訓練をする。

授業の到達目標 Objectives

この演習では、以下の5点を目標とする。

1. 金融の基礎概念・理論を十分に理解すること。
2. 日々報道される金融事象の意味を的確に把握できること。
3. 自分の前提とする仮定を意識しつつ、自ら論理を組み立て、それを表現できるようになること。
4. 英語による情報収集に慣れること。
5. ソフトウェアを用いた統計分析に慣れること。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

適宜、授業内で担当教員より指示する

授業計画 Course Schedule

第1回：オリエンテーション・打ち合わせ
第2～7回：テキスト1 輪読・検討 Part 3: Financial Institutions (毎回3-4名程度が担当箇所を報告)
第8～11回：統計ソフトウェアRの練習
第12～13回：グループ研究
第14回：グループ研究の中間報告

教 科 書 Textbooks

Mishkin, F.S., The Economics of Money, Banking and Financial Markets, Global Ed., 2021 (プレゼミでPart 2、前期ゼミでPart3, 4を輪読する。旧版の中古でも可、kindle版は不具合が多いのでお勧めしません)

参考文献 Reference Books

授業中に関連する論文・書籍・データを紹介する。

評価方法 Evaluation

	割 合 (%) Percent (%)	評 価 基 準 Description
試 験 Examinations	%	
レポート Papers	30%	グループ研究構想発表会に参加すること
平常点評価 Class Participation	70%	出席。報告。議論への活発な参加。
そ の 他 Others	%	

備考・関連URL Note・URL

- マクロ経済学A、ミクロ経済学Aを履修済みであることが望ましい。
- 金融論とファイナンスの両方を履修する予定であることが望ましい。
- 計量経済学を並行して履修すると、分析手法の幅が広がるのでなお良い。

指導教員のホームページ

<https://www.waseda.jp/fpse/faculty/2019/08/12/401/>

指導教員の近著：

『地域金融の経済学-人口減少下の地方活性化と銀行業の役割』 2021年 慶応義塾大学出版会

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

経済学演習 I

2025

整理番号 No.	科 目 名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
207	経済学演習 I (片山宗親)	春学期	JDP 3 年以上・2 単位 EDP 2 年以上・2 単位	片山 宗親
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副 題 Subtitle

データ分析とマクロ経済

授業概要 Course Outline

本経済学演習では、財政政策、金融政策、ビジネスサイクルなど、マクロ経済に関する諸問題を取り上げ、データ分析を軸に経済の仕組みを一方踏み込んで理解することを目指します。グループで共同論文を執筆し、卒業論文執筆のための準備を行います。

授業の到達目標 Objectives

一年間を通じ、皆さんの興味あるテーマについて、グループで論文を書き上げることが大きな目標です。これを通じて、アカデミックな知識だけでなく、(1)自ら論理的に考える力、(2)データ分析能力、(3)プレゼンテーションスキルを養うことを目標とします。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

「計量経済学 I」ならびに「計量経済学 II」、もしくは類似の科目を履修することを強く勧めます。データ分析に習熟している場合は、その限りではありません。

授業計画 Course Schedule

学生のプレゼンテーションを中心に進行します。具体的な方法などは、履修者と相談の上決定しますが、大講義などと異なり、全員の積極的な参加(コメント・質問)が大前提です。

教 科 書 Textbooks

参考文献 Reference Books

評価方法 Evaluation

	割 合 (%) Percent (%)	評 価 基 準 Description
試 験 Examinations	%	
レポート Papers	%	
平常点評価 Class Participation	100%	プレゼンテーションの出来やディスカッションへの参加にもとづく
そ の 他 Others	%	

備考・関連URL Note・URL

<https://katayama.w.waseda.jp/>ゼミに関する質問などは、気軽にmkatayama@waseda.jpまで送ってください。また、よくある質問などは、ココにまとめてあります。

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

経済学演習 I

2025

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
208	経済学演習 I (金子昭彦)	春学期	JDP 3 年以上・2 単位 EDP 2 年以上・2 単位	金子 昭彦
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副 題 Subtitle

マクロ経済分析と国際金融

授業概要 Course Outline

経済学演習Iでは、まず下記の教科書 1 を利用し国際金融の基本概念や基本データを学ぶ。その後、教科書 2 で国際金融への理論的アプローチを学ぶ。

授業の到達目標 Objectives

国際金融の基本概念や基本データを理解すること。

経済学演習IIでは、教科書 2 を用いて理論面を勉強する予定であるが、その前段階として国際金融の基本概念や基本データを理解することが経済学演習Iの目的である。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

適宜、授業内で担当教員より指示する

授業計画 Course Schedule

第 1 回～第14回：国際金融及び国際貿易の基礎知識の取得

教科書 Textbooks

1. 「国際収支の基礎・理論・諸問題：政策へのインプリケーションおよび為替レートとの関係」 棚瀬 順哉 財経詳報社
2. “International macroeconomics: A modern approach” Martı́n Uribe, Stephanie Schmitt-Grohé, Michael Woodford, Princeton

参考文献 Reference Books

- 「MBAのための国際金融」 小川英治 川崎健太郎 有斐閣
「経済・ファイナンスデータの計量時系列分析」 沖本竜義 有斐閣
「実証から学ぶ国際経済」 清田 耕造 神事 直人 有斐閣

評価方法 Evaluation

	割 合 (%) Percent (%)	評 価 基 準 Description
試 験 Examinations	%	
レポート Papers	%	
平常点評価 Class Participation	100%	授業準備の状況、授業における積極性
そ の 他 Others	%	

備考・関連URL Note・URL

ミクロ経済学入門、マクロ経済学入門の内容を理解していること。
自習時間に時間をかけることが望まれる。

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

経済学演習 I

2025

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
209	経済学演習 I (上條良夫)	春学期	JDP 3 年以上・2 単位 EDP 2 年以上・2 単位	上條 良夫
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副 題 Subtitle

行動・実験経済学

授業概要 Course Outline

一連の演習 (I～IV) は、実験経済学および行動経済学に関する卒業論文を執筆することを目標として実施されます。実験経済学の研究の花形である経済実験を利用した研究を遂行するには以下のような多様な能力が必要となります。

- (1) 経済理論や他分野の理論に基づいて仮説・予測を構築する能力
- (2) 仮説・予測を検証するための適切な実験計画を立てる能力
- (3) 実験を準備し、遂行する能力
- (4) 収集されたデータを解析する能力
- (5) 一連の作業を言語化し論文としてまとめる能力

一連の演習では、これらの能力を獲得するための学習に取り組みます。学習内容は、実験経済学・行動経済学・ゲーム理論のテキスト輪読に加えて、実際の研究データを題材としたデータ解析演習、先行研究を読み込んだ上での自分なりの仮説構築を目的としたグループワーク、実験実施の際に必要なマテリアルの作成演習などを含みます。もちろん、一人の個人がこれらの多様なスキルに熟達することは非常に困難です。そこで、学生の皆さんには、まずこれらの能力に関して一定水準のスキルを獲得した上で、それぞれの個性と希望に応じて、

- (A) 数理的な解析に基づいて仮説・予測を構築するグループ
- (B) 政治学・心理学・社会学などの他分野の理論から仮説・予測を構築するグループ
- (C) 実験用の資料やアプリを作成するグループ
- (D) データを解析するグループ

などに分かれて活動してもらいます。

詳細な内容やグループ分けは、学生の関心、習熟度などに応じて臨機応変に決定します。

演習 I では、実験計画書 (研究計画書) の執筆を目標とします。

授業の到達目標 Objectives

卒業論文の執筆に向けた技能を習得するとともに、実験計画書 (研究計画書) の執筆をする。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

入門的な統計学の知識及びゲーム理論の知識を前提とする。

授業計画
Course Schedule

学生の発表とグループワークを中心として演習を進める。
学生の希望に応じて、他大学（同志社大学の田口ゼミなど）との合同ゼミなどの企画について検討する。

- 第1回：研究アイデアに関する進捗報告とディスカッション（1）
- 第2回：研究アイデアに関する進捗報告とディスカッション（2）
- 第3回：研究アイデアに関する進捗報告とディスカッション（3）
- 第4回：研究アイデアに関する進捗報告とディスカッション（4）
- 第5回：研究アイデアに関する進捗報告とディスカッション（5）
- 第6回：研究計画書に関する進捗報告とディスカッション（1）
- 第7回：研究計画書に関する進捗報告とディスカッション（2）
- 第8回：研究計画書に関する進捗報告とディスカッション（3）
- 第9回：研究計画書に関する進捗報告とディスカッション（4）
- 第10回：研究計画書に関する進捗報告とディスカッション（5）
- 第11回：研究計画の発表（1）
- 第12回：研究計画の発表（2）
- 第13回：研究計画の発表（3）
- 第14回：これまでの総括

教科書
Textbooks

講義中に指示する。

参考文献
Reference Books

講義中に指示する。

評価方法
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	%	
平常点評価 Class Participation	%	
その他 Others	100%	平常点 50% その他 50% 発表及び実験計画書のクオリティ

備考・関連URL
Note・URL

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。
履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。
The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.
Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.
<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

経済学演習 I

2025

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
210	経済学演習 I (近藤康之)	春学期	JDP 3 年以上・2 単位 EDP 2 年以上・2 単位	近藤 康之
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副 題 Subtitle

貿易、環境、経済効果の計量分析

授業概要 Course Outline

製品を生産するには半製品や電力などが必要であり、半製品や電力を生産するには原材料や天然資源が必要です。製品のサプライチェーンは、さまざまな生産プロセス（あるいは産業）の複雑なネットワークにより構成されています。経済のグローバル化が進んだ現代においては、製品のサプライチェーンは世界各国に広がっています。したがって、我々の消費活動は国内産業だけでなく、貿易を通じて他国の産業にも影響を与えます。また、生産活動により不可避免的に廃棄物や温室効果ガスなどが排出されるため、我々の消費活動は様々な地域の自然環境にも影響を与えます。持続可能な消費と生産を実現するためには、製品の国際サプライチェーンについて、データに基づいて理解することが必須です。

この演習では、貿易、環境、経済効果の計量分析の方法として、産業連関分析を学びます。産業連関分析は、経済学分野において発展してきたものですが、産業エコロジー分野における主要な分析手法の1つとしても広く用いられています。経済学演習IとIIを通して、学んだ産業連関分析の方法をデータに適用して環境問題・社会経済問題を分析します。これを1チーム4人程度の共同研究として実施します。

2年生の秋学期後半に実施するプレ演習では、産業エコロジー分野における産業連関分析に関する分析事例を通して、産業連関分析がどのように用いられているかを学びます。

授業の到達目標 Objectives

産業連関分析の基礎的方法を理解し、それを実際にデータに適用して貿易、環境、経済効果の計量分析を行えるようになること。また、分析結果をレポートおよび口頭により発表する技術を向上すること。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

適宜、授業内で担当教員より指示する。

授業計画 Course Schedule

産業連関分析の基礎的方法の学習は、オンデマンドコンテンツを用いた事前学習と、ゼミの授業時間中の補足説明などを組み合わせて行います。1チーム4人程度で1月までに共同論文を執筆するために予備的分析を行うことが春学期中の課題です。ゼミの授業時間の多くは、共同論文のための進捗報告とグループワークに充てられます。

第1回～第6回：共同研究論文のテーマ検討

第7回～第14回：共同研究論文のためのグループワークおよび進捗報告

教科書 Textbooks

指定しません。

参考文献
Reference Books

学期の途中で随時指示します。

小長谷一之・前川知史（編）（2012）『経済効果入門：地域活性化・企画立案・政策評価のツール』日本評論社

藤川清史（2005）『産業連関分析入門：ExcelとVBAでらくらくIO分析』日本評論社

Miller, R. E.; Blair., P. D. (2022) Input-Output Analysis: Foundations and Extensions, 3rd ed. Cambridge University Press

Nakamura, S.; Kondo, Y. (2009) Waste Input-Output Analysis: Concepts and Application to Industrial Ecology. Springer

評価方法
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	50%	宿題、共同研究論文（予備的分析）
平常点評価 Class Participation	50%	グループワーク、進捗報告のプレゼンテーション
その他 Others	%	

備考・関連URL
Note・URL

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

経済学演習 I

2025

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
211	経済学演習 I (西郷浩)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	西郷 浩
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副 題 Subtitle

社会・経済の統計的分析

授業概要 Course Outline

この演習Iは、Rなどの統計ソフトウェアを利用しながら、各種の統計分析の手法を学習する。教科書を含めた教材は、ゼミ生と相談して選ぶ。ゼミ生全員が自主的に実習に取り組むことを期待する。

この演習は、ゼミ生が演習I、II、III、IVをすべて履修することを想定して、演習IVにおいて演習論文を完成することを最終的な目標とする。演習Iと演習IIは、演習論文作成に必要な統計的分析手法の習熟に充てられる。演習IIIと演習IVは、各自が選んだテーマに沿って、分析の結果を定期的に報告し、ゼミ生との議論に基づいて分析を発展させることに充てられる。

演習I、演習III（どちらも春学期に開講される）では9月に合宿を実施する予定である。

年間の予定や演習論文のテーマについては、備考・関連URLにある、2004年度以降の演習の記録を参照のこと。

授業の到達目標 Objectives

演習I：Rなどのソフトウェアを用いて統計分析が実行できること。

演習II：同上

演習III：各自が選んだテーマに沿って統計データを分析すること。

演習IV：演習論文の完成

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

- (1)「統計学I」と「統計学II」を単位取得済みであること。
- (2)「計量経済学I」を単位取得済みまたは登録中であることが望ましい。演習Iと並行して登録するのでもよい。

授業計画 Course Schedule

第1回：オリエンテーション・教科書の輪読

教科書の輪読とRによる統計実習

第2回：教科書の輪読

教科書の輪読とRによる統計実習

第3回：教科書の輪読

教科書の輪読とRによる統計実習

第4回：教科書の輪読

教科書の輪読とRによる統計実習

第5回：教科書の輪読

教科書の輪読とRによる統計実習

第6回：教科書の輪読

教科書の輪読とRによる統計実習

第7回：教科書の輪読

教科書の輪読とRによる統計実習

第8回：教科書の輪読
教科書の輪読とRによる統計実習
第9回：教科書の輪読
教科書の輪読とRによる統計実習
第10回：教科書の輪読
教科書の輪読とRによる統計実習
第11回：教科書の輪読
教科書の輪読とRによる統計実習
第12回：教科書の輪読
教科書の輪読とRによる統計実習
第13回：教科書の輪読
教科書の輪読とRによる統計実習
第14回：教科書の輪読
教科書の輪読とRによる統計実習

教科書 Textbooks

ゼミ生と相談して決定する。

参考文献 Reference Books

評価方法 Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	50%	期末レポート（演習で使ったスライドなどをもとに作成したもの）
平常点評価 Class Participation	50%	演習における報告の内容
その他 Others	%	

備考・関連URL Note・URL

過去の演習の記録<https://saigo.w.waseda.jp/info/seminarsupervision.htm>
提出された演習論文の題名
<https://saigo.w.waseda.jp/info/seminartheses.htm>

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。
履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。
The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.
Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.
<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

経済学演習 I

2025

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
213	経済学演習 I (笹倉和幸)	春学期	JDP 3 年以上・2 単位 EDP 2 年以上・2 単位	笹倉 和幸
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副 題 Subtitle

マクロ経済学（新古典派総合）

授業概要 Course Outline

この演習では新古典派総合について研究する。新古典派総合とは、短期においてはケインズの理論がそして長期においては新古典派の理論が成り立つという、1955年にサミュエルソンによって提案されたマクロ経済学の考え方である。新古典派総合は1960年代には影響力があったが、次第に顧みられなくなり、現在では「瓦解した理論体系」とみなされている。この演習では新古典派総合の今日的意義を探究する。新古典派総合については『標準 マクロ経済学』14～16ページにわかりやすい説明がある。さらに新古典派総合については参考文献（1）～（4）を、マクロ経済学の現状については参考文献（5）～（8）をできるだけ読んでおくこと。

授業の到達目標 Objectives

新古典派総合について自分自身の考えをもてるようになる。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

ケインズ『一般理論』を毎週 2 章ずつ読んで報告書を作成する。所要時間は毎週90分。

授業計画 Course Schedule

第1回：ケインズ『一般理論』
ケインズ『一般理論』について説明します。
第2回：古典派理論とセイの法則
古典派理論とセイの法則について説明します。
第3回：有効需要の原理
有効需要の原理について説明します。
第4回：消費理論
消費理論について説明します。
第5回：乗数理論
乗数理論について説明します。
第6回：投資理論
投資理論について説明します。
第7回：流動性選好説
流動性選好説について説明します。
第8回：貨幣数量説
貨幣数量説について説明します。
第9回：ハロッドの経済動学
ハロッドの経済動学について説明します。
第10回：ケインズ派の景気循環理論
ケインズ派の景気循環理論について説明します。
第11回：ヒックスとIS-LMモデル
ヒックスとIS-LMモデルについて説明します。
第12回：マネタリズムと合理的期待形成学派

マネタリズムと合理的期待形成学派について説明します。

第13回：新しいケインズ派経済学

新しいケインズ派経済学について説明します。

第14回：新古典派経済成長理論

新古典派経済成長理論について説明します。

教科書 Textbooks

Keynes, John M., 1936, The General Theory of Employment, Interest and Money, London: Macmillan. (ケインズ (塩野谷祐一訳), 1995, 『雇用・利子および貨幣の一般理論』東洋経済新報社.)

参考文献 Reference Books

(1) 荒憲治郎, 1974, 「新古典派総合：混合経済下の政策論の模索」, 稲田献一・岡本哲治・早坂忠編『近代経済学再考』有斐閣, pp. 91-118.

(2) 根井雅弘, 2018, 『サムエルソン『経済学』と新古典派総合』中央公論新社.

(3) De Vroey, Michel, 2016, A History of Macroeconomics from Keynes to Lucas and Beyond, New York: Cambridge University Press.

(4) Karier, Thomas, 2010, Intellectual Capital: Forty Years of the Nobel Prize in Economics, Cambridge: Cambridge University Press. (キャリア (小坂恵理訳), 2020, 『ノーベル賞で読む現代経済学』筑摩書房.)

(5) Chugh, Sanjay K., 2015, Modern Macroeconomics, Cambridge, Massachusetts: The MIT Press.

(6) Colander, David, and Craig Freedman, 2019, Where Economics Went Wrong: Chicago's Abandonment of Classical Liberalism, Princeton: Princeton University Press.

(7) Mankiw, N. Gregory, 2006, "The Macroeconomist as Scientist and Engineer," Journal of Economic Perspective, Vol. 20, pp. 29-46.

(8) Romer, David, 2019, Advanced Macroeconomics, 5th Edition, New York: McGraw-Hill. (ローマー (堀雅博・岩成博夫・南條隆訳), 2010, 『上級マクロ経済学』(第3版) 日本評論社)

評価方法 Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	40%	3年次はタームペーパー、4年次はゼミ論文の質で評価する。
平常点評価 Class Participation	60%	授業への積極的参加。
その他 Others	%	

備考・関連URL Note・URL

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

経済学演習 I

2025

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
214	経済学演習 I (鎮目雅人)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	鎮目 雅人
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副題 Subtitle

世界の中における日本経済の歴史/Japanese economy in the modern world

授業概要 Course Outline

われわれが生きている現在は、過去から未来へと続く長い歴史の一局面である。本演習では、グローバルな環境の中での日本の位置づけの変遷を意識しつつ、日本経済史研究の基礎を学ぶ。その際、経済学の知識(理論・実証)と歴史学のアプローチ(史料批判/document critique)を用いて社会現象を分析する方法論を学ぶ。履修者は、自ら資料を読み歴史について考えるという意味で、講義科目としての経済史の授業(既存の研究成果を受け身で受け取る)とは異質な世界を体験することとなる。春学期(演習I)においては、経済史に関するカレントなトピックを選び、資料を批判的に検討する。毎回、参考文献・資料について、全員でディスカッションを行うことを想定しているので、参加者全員があらかじめ参考文献に目を通しておくことが期待される。履修者は、2年生秋学期までに「経済史入門」「日本経済史」を履修すること。なお、ゼミへの参加に際して日本語の文献を読む能力は必須である/Students are expected to be able to read contemporary Japanese.

授業の到達目標 Objectives

日本経済史研究の基礎を習得したうえで、経済史研究の方法論に則り、各自が単著による研究論文を完成させることを最終目標とする。そのための準備作業を通じ、①自らの問題意識に基づき、②客観的な論拠に基づいて検証を行い、③研究の成果を他者に伝える技術を習得する。研究論文の執筆言語は日本語または英語とする/Students will be required to write a thesis either in Japanese or English.

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

毎回のゼミに際して、事前に全員が課題に目を通し、ゼミ開始までに要約を提出することを義務付ける。

授業計画 Course Schedule

- 第1回：授業の目的、今後の進め方
- 第2回：課題図書の輪読
- 第3回：課題図書の輪読
- 第4回：課題図書の輪読
- 第5回：課題図書の輪読
- 第6回：課題図書の輪読
- 第7回：卒業論文作成に向けた研究計画
- 第8回：課題図書の輪読
- 第9回：課題図書の輪読
- 第10回：課題図書の輪読
- 第11回：課題図書の輪読
- 第12回：課題図書の輪読
- 第13回：課題図書の輪読
- 第14回：卒業論文作成に向けた研究計画

教科書
Textbooks

指定しない。

参考文献
Reference Books

その都度指示する。

評価方法
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	%	
平常点評価 Class Participation	%	
その他 Others	100%	毎回のゼミの事前課題：30% 授業への積極的参加（報告・ディスカッション）：70%

備考・関連URL
Note・URL

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

経済学演習 I

2025

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
215	経済学演習 I (田中久稔)	春学期	JDP 3 年以上・2 単位 EDP 2 年以上・2 単位	田中 久稔
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副題 Subtitle

計量経済学のための数学

授業概要 Course Outline

この演習では、パラメトリックモデル、セミパラメトリックモデル、弱収束、経験過程などの、計量経済学のフロンティアを理解するために必要となる数学を学ぶ。参加希望者は以下の点に十分に注意すること：(i) 本演習では統計処理言語「R」や数学的文書作成ソフト「LaTeX」を多用する。したがって各自が自分のノートPC（安価なもので構わない）を用意する必要がある。(ii) この演習では非常に広い範囲を深く学習することになるため、月曜4限・5限に2コマ連続して実施する。(iii) 本演習の内容を理解するには基礎的な数学の知識が必要となる。とくに、中級レベルの解析学と線型代数の理解を要求する。

授業の到達目標 Objectives

以下の3点を目標とする。

- (i) 学術雑誌に掲載されている計量経済学の論文の概要を理解できる。
- (ii) 社会・経済現象を統計処理言語「R」を用いて数値的に分析できる。
- (iii) 「LaTeX」を用いて数理的な論文を執筆できる。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

毎回、授業冒頭に前回の内容の理解を確認するための小テストを実施する。
また当番制でゼミの内容をまとめたノートをLaTeXにより作成する。

授業計画 Course Schedule

1. 数理統計学の復習とパラメトリックモデルの推定
2. 関数解析とセミパラメトリックモデルの理論

教科書 Textbooks

久保木・鈴木「セミパラメトリック推測と経験過程」(朝倉書店)

参考文献 Reference Books

田中久稔「計量経済学のための数学」(日本評論社)
星野・田中・北川「Rによる実証分析」(オーム社)

評価方法 Evaluation

	割 合 (%) Percent (%)	評 価 基 準 Description
試 験 Examinations	50%	授業冒頭で復習のための小テストを実施する。不受験もしくは不合格が5回に達した場合には「不可」とする。
レポート Papers	50%	当番制で作成するLaTeXによる「講義ノート」によって評価する。
平常点評価 Class Participation	%	
そ の 他 Others	%	

備考・関連URL Note・URL

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

経済学演習 I

2025

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
216	経済学演習 I (遠山祐太)	春学期	JDP 3 年以上・2 単位 EDP 2 年以上・2 単位	遠山 祐太
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副 題 Subtitle

産業組織論、経済政策、消費者行動に関する実証研究

授業概要 Course Outline

本ゼミでは、産業組織論、経済政策(特に競争・規制政策)、消費者行動(家計行動・数量マーケティング)などにおける各種課題について、経済学の知見を活用した実証研究を行います。皆さんが学んできた経済学の理論分析は切れ味良いツールであるものの、そのみで解答するには難しい課題が数多く存在します。現実の事象や課題を分析し、その結果を政策・ビジネスへ活用するには、実際のデータと向かうことが欠かせません。本ゼミでは、皆さんが興味を持つ政策・ビジネス上の重要な学術課題に対して、経済学に基づいた定量的な分析を行い、政策・ビジネスへのインプリケーションを持つアウトプット(論文とプレゼンテーション)を産み出すことを目指します。

演習1においては、疑似データセット及び現実のデータセットを用いた実証研究プロジェクトに取り組んでいきます。手を動かしてデータ分析に取り組むことで、統計・計量分析及びプログラミングの知識を深めるとともに、プレゼンテーションのやり方・データ分析プロジェクトの進め方を学んでいきます。

授業の到達目標 Objectives

経済学、データ分析、プログラミングを活かした政策・ビジネスに関する応用・実証研究を行えると同時に、中長期的にも新しい知識を学び吸収していける人材になることを目指します。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

本ゼミ参加者は、2年生秋学期及び3年生時に計量経済学系科目の履修を必須とします。具体的な要件については、https://yutatoyama.github.io/teaching/zemi_for_AY2025 を参照してください。

授業計画 Course Schedule

演習1においては、疑似データセット及び現実のデータセットを用いた実証研究プロジェクトに取り組んでいきます。手を動かしてデータ分析に取り組むことで、統計・計量分析及びプログラミングの知識を深めるとともに、プレゼンテーションのやり方・データ分析プロジェクトの進め方を学んでいきます。

学生の発表を中心に進めます。具体的な進め方については参加者と相談して決定します。なお、人数にもよりますが、学生による報告は「短めであるが、頻度は多めに」という形で進めます。そして、他の学生からの積極的なコメント・質問を期待します。

「学期に一回の発表を乗り切れば、あとは教室に黙って座っていれば良い」というマインドセットの方には決してオススメしません。

教科書
Textbooks

特になし。

参考文献
Reference Books

研究の方法論については
ブース・コロンブ・ウィリアムズ他「リサーチの技法」
Bellemare "Doing Economics: What You Should Have Learned in Grad School"
計量経済学については、
伊藤「データ分析の力」
安井「効果検証入門」
星野・田中・北川「Rによる実証分析（第2版）：回帰分析から因果分析へ」
西山・新谷・川口・奥井「計量経済学」
上武・遠山・若森・渡辺「実証ビジネスエコノミクス」
その他、適宜紹介します。

評価方法
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	%	
平常点評価 Class Participation	%	
その他 Others	100%	平常点100%。ゼミの一員として毎回出席し、積極的に議論に参加することを求めます。やむを得ない事情による欠席は、十分事前に教員及びゼミメンバー全員に必ず連絡してください。

備考・関連URL
Note・URL

ゼミ応募に際して、ゼミの詳細や応募書類について、https://yutatoyama.github.io/teaching/zemi_for_AY2025 を必ず参照してください。

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

経済学演習 I

2025

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
217	経済学演習 I (内藤巧)	春学期	JDP 3 年以上・2 単位 EDP 2 年以上・2 単位	内藤 巧
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副 題 Subtitle

国際貿易論

授業概要 Course Outline

国々はどのような財を輸出し、輸入するのか？人々は貿易から利益を受けるのだろうか？このような問題を扱う国際貿易論は19世紀以来多くの人たちの興味を引きつけてきたが、それを理解し、他人に説明できるまでに習熟するのは平均的な経済学科の学部生にとって非常に難しい。

国際貿易論が難しい1つ目の理由は、一般均衡モデルを考えなければならないからである。国際貿易は異なる産業の間で、あるいはある産業内の異なる製品の間で起こるものなので、必然的に2つ以上の財あるいは製品（そしてそれらの生産に使われる生産要素も）の市場均衡を同時に扱わなければならない。中級ミクロ経済学の授業でさえ不十分にしか触れられない生産経済の一般均衡モデルを、2つ以上の国がある経済で分析しなければならないのだから、理論的な難易度が高いのは当然である。

2つ目の理由は、国際貿易論の実証科学化である。より細かいデータの入手可能性とコンピューターの性能が高まり続けていく中で、国際貿易の理論はますます実証可能になってきている。しかしながら、理論と現実の距離を正確に測るためには、適切な計量手法を理解し、実装するスキルを身につけなければならない。

このように、国際貿易論に習熟するには多くの時間と努力が必要である。このゼミでは、I-IVの4学期にわたって、国際貿易モデル（完全競争モデルと不完全競争モデル）の理論と実証を「ゆっくり」「深く」学ぶ。より具体的には、奇数年度には完全競争モデル（アーミントン・モデル、イートン・コータム・モデルなど）、偶数年度には不完全競争モデル（クルッグマン・モデル、メリッツ・モデルなど）を扱う。春学期（演習I, III）には理論、秋学期（演習II, IV）には実証を行う。

前提条件として、演習Iの開始時点までに2年春学期配当「ミクロ経済学A」、及び演習IIの開始時点までに2年春学期配当「計量経済学」を履修するか、それと同等の知識を身に着けていることが必要である。

授業の到達目標 Objectives

国際貿易モデル（完全競争モデルと不完全競争モデル）の理論と実証を理解し、説明できるようになる。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

発表者はランダムに当てられるので、全ての学生は常に発表の準備をしておかなければならない。とはいえ、進度は遅いので、週当たりの負担は少ない。理論の場合は発表スライドを用意する必要さえない。

授業計画 Course Schedule

奇数年度第1回 - 第14回：完全競争貿易モデルのハンドアウトを輪読する。
偶数年度第1回 - 第14回：不完全競争貿易モデルのハンドアウトを輪読する。

教科書
Textbooks

なし。ハンドアウトがオンラインで配布される。

参考文献
Reference Books

大学院レベル：

Feenstra, R. C., 2016. Advanced International Trade, Second Edition, Princeton University Press, Princeton.

実証（演習II, IVの教科書）：

清田耕造, 神事直人, 2017. 『実証から学ぶ国際経済』. 有斐閣, 東京.

中級（プレ演習の教科書）：

阿部顕三, 遠藤正寛, 2012. 『国際経済学』. 有斐閣, 東京.

評価方法
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	%	
平常点評価 Class Participation	100%	・発表及び議論のパフォーマンスを総合的に評価する. ・欠席3回以上で不合格. ただし, 就職活動等による欠席は事前に証拠を提出したときのみ欠席として扱わない.
その他 Others	%	

備考・関連URL
Note・URL

<<https://tnaito.w.waseda.jp>>

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

経済学演習 I

2025

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
218	経済学演習 I (船木由喜彦)	春学期	JDP 3 年以上・2 単位 EDP 2 年以上・2 単位	船木 由喜彦
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副 題 Subtitle

ゲーム理論と実験経済学

授業概要 Course Outline

この演習ではⅠからⅣまで継続することにより、「ゲーム理論」の基礎を修得すること、また、「経済学実験」を実施・分析する基礎能力を修得することを目標とします。さらに、それに関連する経済学・政治学諸分野の問題を研究します。例えば環境問題、情報の経済学、産業組織論、公共財供給問題などがそれらの研究テーマの一例となります。

ゲーム理論では、互いに依存関係のある状況における、個人の合理的な意思決定や行動を研究します。実験経済学では、ゲーム理論や経済学の理論のとおり人々が行動するのか、もし、そうでないとする、それはなぜかという問題を研究します。

最終的な目標は自分の定めた研究テーマの卒業論文を作成し、それを卒論発表会で報告して頂くことです。3年次の演習Ⅰ・演習Ⅱでは、このための基礎研究をします。まずは、担当教員の推薦するゲーム理論あるいは実験経済学の平易なテキストまたは資料を輪読することから始める予定です。その際、実際にゼミの皆さんに参加していただいて、人々の行動選択の実験を実施し、実験経済学をより理解していただく予定です。卒業論文のテーマとしては上記のほか、実際に実験を実施した研究、国際政治・国際経済に関する研究、スポーツのゲーム理論分析、制度の比較研究、交通混雑の解消の問題、ゼミの学生マッチングの問題など内容は多岐にわたりますが、そのほとんどがゲーム理論に関連した研究です。その中には論文コンクールにおいて優秀賞を受賞したものもあります。なお、卒業論文の内容は卒論発表会にて報告しますが、0Bや2年生の参加もあります。例年、1－2割の学生が大学院に進学します。なお、各演習科目修了時にはその期間に学んだことをまとめたレポートを作成していただきます。

実験経済学に関しては、担当教員の実施する経済学・ゲーム理論実験に参加して頂き、実地的に実験経済学の知識・技能を修得して頂く予定です。東京大学や慶応大学とのインターゼミ、さらにオープンゼミの準備、発表会なども実験経済学の修得に役立ちます。

授業の到達目標 Objectives

ゲーム理論の基礎知識の確実な修得、経済学実験実施・分析能力の修得、さらにそれらを踏まえた応用力の養成。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

適宜、授業内で担当教員より指示する

授業計画
Course Schedule

大学の基準に沿って、対面授業で行います。

経済学演習Ⅰ

第1回：春休み中の研究報告、テキスト選定、年度計画

第2回－第13回：テキスト輪読、経済学実験実習

第14回：テキスト輪読、経済学実験実習、オープンゼミへの対応を含めた演習
夏合宿（テキスト輪読、経済学実験実習、懇親会）

経済学演習Ⅱ

第15回－第20回：テキスト輪読、経済学実験実習、慶応大学とのインターゼミ

第21回－第22回：卒論テーマ設定（議論と面接）

第23回－第24回：卒論研究に向けての報告と議論、3年次期末レポートの作成

第25回－第26回：4年生の卒論に対する討論、3年次期末レポートの作成

第27回：卒論発表会（4年生）と討論会

第28回：今後研究計画の報告、3年次期末レポートの提出

教科書
Textbooks

担当教員の配付する資料またはテキストを用います。

参考文献
Reference Books

船木由喜彦『初めて学ぶゲーム理論』（新世社）

船木由喜彦『ゲーム理論講義』（新世社）

船木、武藤、中山編著『ゲーム理論アプリケーションブック』（東洋経済新報社）

中山、武藤、船木編著『ゲーム理論で解く』（有斐閣）

武藤滋夫『ゲーム理論入門』（日経文庫）

船木、石川編著『制度と認識の経済学』（NTT出版）

佐々木宏夫『入門ゲーム理論』（日本評論社）

梶井厚志『戦略的思考の技術』（中公新書）

船木由喜彦『演習ゲーム理論』（新世社）

岡田 章『ゲーム理論・入門』（有斐閣アルマ）

河野、西條編『社会科学の実験アプローチ』（勁草書房）

川越敏司『行動ゲーム理論入門』（NTT出版）

フリードマン・サンダー『実験経済学の原理と方法』（川越ほか訳・同文社）

評価方法
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	%	
平常点評価 Class Participation	%	
その他 Others	100%	出席点を基に、演習での報告、議論、レポートの内容を加味して成績評価をする。

備考・関連URL Note・URL

学生に対する要望：「受講希望学生に対する掲示」を良く読んでください。

関連URL：<http://funakiwaseda.goodplace.jp/>

<http://yukihikofunaki.blogspot.jp/>

大学院進学希望者は4年次より、大学院のゼミに参加することができます。

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

経済学演習 I

2025

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
219	経済学演習 I (別所俊一郎)	春学期	JDP 3 年以上・2 単位 EDP 2 年以上・2 単位	別所 俊一郎
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副 題 Subtitle

日本の公共政策に関する実証分析

授業概要 Course Outline

大学は知識を創造しているところです。講義ではすでに創造された知識を伝達することに重点が置かれています。せっかく大学に来ているのに、それだけではもったいないです。

演習は、知識を創造するという経験をする場所です。すでに創造された知識を受け取るだけでなく、受け取った知識を活用して、自分なりの問題に対して回答を導き出し、新たな知識を生産します。さらに、新しく生産された知識を分かりやすく他の人に伝達するという訓練も行います。そのため、このゼミでは、他の講義や授業でもできることはやりません。準備し、発表し、質問を受け、回答を返すことを通して、新たな知識の創造を、少人数体制でじっくりと体験します。

知識を創造することは、ものの見方を変えます。新たに知識を得ると、テレビを見ても、電車に乗っても、街を歩いていても、これまでとは違った風景に感じられるはずです。学問とは、そのためにあるのです。大学で、大学らしいことを、やってみましょう。

授業の到達目標 Objectives

この演習での目標は、みなさん自身が興味のあるテーマについて論文を書き上げることです。自分の興味のあるテーマについて経済学的な論文を書くことは、得難く、楽しい経験になるはずです。「経済」にいまひとつ興味もてない人、数式やグラフで練習問題は解けても何をやっているんだかぴんこない人に、もっと知的で素敵な体験をしてほしいと思っています。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

2年生秋学期から3年生にかけて、計量経済学系科目(計量分析(政治)や計量経済学1)と、政策に関連する科目(財政学A/B, 労働経済学I, II, 地方財政など)の履修を強く推奨します。具体的な科目については個別に紹介します。

授業計画 Course Schedule

演習1では、演習2以降で行う実証研究の基礎を固めるために、まず、計量経済学の基礎的手法の実践、統計・計量経済学ソフトウェアの扱いについて学びます。次に、研究テーマの探索・関連する先行研究の検討を進めます。

授業は学生の発表と、それに対する学生と教員のコメント、応答を中心に進めます。より具体的な方法については参加者と相談して決定します。1学期内での発表回数は、参加者数にもよりますが、多めになる予定です。

教科書
Textbooks

松浦寿幸. 2024. Rによるデータ分析入門—経済分析の基礎から因果推論まで—. 東京図書. ISBN-13: 978-4489024245

星野匡郎・田中久稔・北川梨津. 2023. Rによる実証分析 (第2版): 回帰分析から因果分析へ. オーム社, ISBN-13: 978-4274230028

参考文献
Reference Books

Stock, James H., Mark W. Watson. 2019. Introduction to Econometrics, Global Edition.

今井耕介. 2018. 社会科学のためのデータ分析入門 (上)(下). 岩波書店

そのほか, 適宜紹介します.

評価方法
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	%	
平常点評価 Class Participation	100%	ゼミの一員として毎回出席して積極的に発言することを求めます. 欠席するときには事前に教員に必ず連絡してください.
その他 Others	%	

備考・関連URL
Note・URL

応募に際しては, ゼミオリエンテーション資料と, 教員ウェブサイト<https://sites.google.com/view/shunbessho/seminar> を必ず参照してください.

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

経済学演習 I

2025

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
221	経済学演習 I (村上由紀子)	春学期	JDP 3 年以上・2 単位 EDP 2 年以上・2 単位	村上 由紀子
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副 題 Subtitle

労働に関する研究

授業概要 Course Outline

経済活動における労働の役割や貢献は大きい。生産関数には労働という生産要素が含まれ、これは人口の影響を受けるが、その質を高め活かすことは、企業の繁栄、イノベーション、経済成長へとつながっていく。また、労働力を供給する人間の多くは、人生の多くの時間を労働に費やしている。能力を発揮し、やる気をもって仕事に取り組みながら、人生の中でワークとライフのバランスをとっていくことは重要である。本演習では、経済の根幹と我々の生活を支える労働について、国や企業の視点からは、技術進歩、産業構造の変化、経済のグローバル化、少子高齢化等の環境変化の中で、いかに人的資源の質を高め、有効に活用し様々な分野で成果を上げていくかという課題について取り組む。また、勤労者の視点からは、個人がより幸せになるように、ライフステージに応じた労働時間、働き方、職業の選択、教育訓練投資や労働移動（転職や国際移動）などが実現するように、社会の仕組みや政策について考察する。

授業の到達目標 Objectives

授業概要で記したテーマに関連する文献を読み、ディスカッションを行うことを通じて、知識を深め、思考力と研究に必要なスキルを高める。また、12月に予定されているインターゼミナールの準備として、グループに分かれ、研究課題を設定し、研究計画をたてる。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

適宜、授業内で担当教員より指示する

授業計画 Course Schedule

第1回：オリエンテーション
第2回～5回：文献研究とディスカッション
第6回：ディベート
第7回：データ検索
第8～11回：文献研究とディスカッション
第12～13回：グループ研究の課題設定と研究計画
第14回：プレゼンテーション

教科書
Textbooks

参考文献
Reference Books

評価方法
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	%	
平常点評価 Class Participation	%	
その他 Others	100%	出席および授業中のディスカッション等への参加 (50%) 宿題 (30%) グループワークの成果 (20%)

備考・関連URL
Note・URL

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。
履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。
The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.
Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.
<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

経済学演習 I

2025

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
222	経済学演習 I (山本竜市)	春学期	JDP 3 年以上・2 単位 EDP 2 年以上・2 単位	山本 竜市
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副 題 Subtitle

ファイナンス

授業概要 Course Outline

ファイナンスとは資産運用・取引、リスクマネジメント、投資の意思決定に関する研究全般を示します。本演習ではファイナンス分野の教科書の輪読やファイナンス理論・実証論文のサーベイを通じ、卒論のテーマの探し方、論文の書き方、研究発表方法など指導します。卒論では興味のあるファイナンスの世界にある問題を取りあげ、データを使って（数学を使っても構わない）簡単に分析してもらいます。

毎年8月下旬にソウル国立大学、台湾国立政治大学、Israel College of Management、千葉商科大学（学長ゼミ）、ベトナム国立大学などの学生、教員が一度に集まるインゼミを行います。毎年参加者数約150人の大きな大会でインゼミでの使用言語は英語です。国際感覚を養ってもらいます。2014年のインゼミはベトナム国立大学、2015年は台湾国立政治大学、2016年はソウル国立大学、2018年は千葉商科大学、2022年度は台湾国立政治大学主催でZoomでの開催、2023年はベトナム国立大学にて現地開催。2024年はソウル国立大学にて開催予定。

本演習履修前に2年生のプレ演習に参加してください。プレ演習の内容は後日emailにて連絡します。

授業の到達目標 Objectives

本演習では、ファイナンス分野の教科書の輪読、理論・実証論文のサーベイ、卒論作成の過程で、以下の点を到達目標とします。1) ファイナンスの基礎概念の理解する、2) 基礎概念を応用することで現実で見られる様々な経済問題の原因を理解する、3) 現実で見られる経済問題に対し自分の意見をまとめ、発表する能力・技術を磨く。卒論とは別にインゼミに向け英語での論文を作成し、英語での発表の仕方も勉強します。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

適宜、授業内で担当教員より指示します

授業計画 Course Schedule

第1回：打ち合わせ

第2-14回：ファイナンス分野の教科書の輪読または理論・実証論文のサーベイ、研究報告

第15回：各自の研究計画の検討

教科書
Textbooks

参考文献
Reference Books

評価方法
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	%	
平常点評価 Class Participation	100%	報告、討論、出席などが評価される。レポート、宿題を課す場合もある。
その他 Others	%	

備考・関連URL
Note・URL

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。
履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。
The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.
Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.
<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

経済学演習 I

2025

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
223	経済学演習 I (若田部昌澄)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	若田部 昌澄
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副 題 Subtitle

現実の経済問題を考えるための経済学史：経済危機と経済学

授業概要 Course Outline

私は経済学は大変面白いと思っています。ただ、多くの学生は、経済学の面白さを体感するところまでは到達していないのが実情ではないでしょうか。経済学が面白くなるには、経済学を使ってみることが一番です。そもそも経済学は現実の経済問題を理解し、解決することを目的としてきました。この点、色々と批判はありますが、問題解決の学問としての現在の経済学は実際の役に立ちます。例えば、2021年初頭から世界的にインフレ率が上昇しました。この現象について、ここまで最も優れた予測と解説をしてきたのは、オリヴィエ・ブランシャールら主流派の現代マクロ経済学者たちでした。もちろん、彼らも完璧ではなく、間違えていたところもあります。むしろ、経済学者はその時々々の情勢を踏まえて、経済知識のアップデートを進めているし、進めていくのが健全な姿です。ここで、経済学の歴史を知っていることも大いに役に立ちます。経済学史は、経済そのものの歴史を扱う経済史とは異なり、経済学という学問の歴史です。歴史を通じた具体的な経済問題を考えると、抽象的な概念を理解することが容易になります。ことに、人類がこれまで経験してきた経済・金融危機や、大きな変化に対して、経済学者がいかに格闘し、経済学を進化させてきたのかを理解すると、経済学が身近に、そして重要なものとして実感できます。私の最近の関心は、中央銀行の理論と実践を経済学史的に考察することです。特に、中央銀行は、歴史的にみて数々の経済・金融危機に直面してきたことから生まれたものであり、経済学との関係は最も密接ですし、今後もそうあり続けると考えられます。さらに、現在、世界経済は、「大きな政府」への転換、脱グローバル化、生産性の低下、成長地域の変遷、気候変動、技術変化、格差の拡大、地政学的リスクの増大といった数々の変化にさらされていると言われていす。こうした変化を受けて、中央銀行も変化への対応に迫られており、中央銀行の任務についても見直しがされています。従来の任務に限ってみても、変化が物価と金融システムに与える影響には無視し得ないものがあります。今年度の演習では、過去の経済危機に焦点を当てて、経済危機に応じて経済学がどのように進化を遂げたのか、それに中央銀行の誕生と発展がどう関わってきたかを考えていきます。演習は2つのパートに分けて運営する予定です。パート1は、経済危機の経済学史的研究に関わる研究になります。ここでは、経済危機の経済学、経済危機の事例研究を行います。パート2は、現在の経済問題を自由に考えます。この問題は、その時々々に話題になっていることならば、何でも取り扱います。そこから、歴史と繋げる試みをしましょう。例えば、最近話題のAIの急速な進歩は過去に先例がないことで、歴史からは何も学ぶことはないのでしょうか。そうではない、というのが、ダロン・アセモグルとサイモン・ジョンソンの新著Power and Progressです。むしろ現在しっかりと対応するには歴史を学ぶべきだというのが彼らの主張です。

本演習では、文献読解と討論が主になりますが、時には外部から講師を読んできてお話をさせていただくことも有益でしょう。

なお、本演習では、学生のキャリア形成支援にも力を入れています。2024年度は、EYの方を講師に招いたり、PwCJapan有限責任監査法人と企業決算書の読み方についての講座を開催しました。好評につき、25年度もPwCJapan有限責任監査法人との講座は開催する予定です。

授業の到達目標 Objectives

1. 論理的な思考力を身につける
2. 口頭でのプレゼンテーション能力を身につける
3. 文献を読むことを苦にしないようになる
4. 英語の文献を読むことを苦にしないようになる
5. 文章を書くことに慣れる
6. 現実の経済問題を分析する能力を身につける
7. 経済学の古典に親しむ

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

1. 事前には教科書の予習が必須。マクロ経済学、ミクロ経済学について、きちんと理解しておくように。
2. 事後的には、学んだことをどう活かすかを考えることが重要。

授業計画 Course Schedule

0. 君たちの生きる社会
 1. 問題解決とは何か：どういう道具が必要か、どういう問題を考えるか、どういう解決策を考えるか
 2. 経済危機の経済学
 3. 経済危機の事例研究

教科書 Textbooks

安宅和人『イシューからはじめよ——知的生産の「シンプルな本質」』（英治出版、2010年）：問題解決の手引きとして有用。

アギオン、フィリップ、セリーヌ・アントニン、サイモン・ブネル『創造的破壊の力』（東洋経済新報社、2022年）：マクロ経済学のもう一つの軸である経済成長論の現状評価として有用。金融政策を考える上でも有益。

飯田泰之『財政・金融政策の転換点』（中公新書、2023年）。

グラットン、リンダ、アンドリュー・スコット『LIFE SHIFT』（東洋経済新報社、2016年）：プレ演習。

野矢茂樹『新版 論理トレーニング』（産業図書、2006年）：プレ演習。

Bernanke, Ben S, 21st Century Monetary Policy: The Federal Reserve from the Great Inflation to COVID-19 (W. W. Norton, 2022年)：言わずと知れた米連邦準備制度理事会元議長かつノーベル経済学賞受賞者による中央銀行論。

Brunnermeier, Markus K., and Ricardo Reis, A Crash Course on Crises: Macroeconomic Concepts for Run-Ups, Collapses, and Recoveries (Princeton University Press, 2023)：100ページ余りで経済危機のマクロ経済学をまとめている。先進国だけでなく、Emerging Marketsにも目配りしているのが良い。

James, Harold, Seven Crashes: The Economic Crises That Shaped Globalization (Yale University Press, 2023)：グローバリゼーションとの関連で7つの経済危機を分析。

随時古典。ケインズ、フリードマンなど。

その他の教科書については、興味深い新刊が出てくるかもしれないので、演習の中で決める。

参考文献 Reference Books

Blanchard, Olivier, Fiscal Policy under Low Interest Rates (The MIT Press, 2022)（『21世紀の財政政策』日本経済新聞出版、2023年）：金融政策は財政政策と密接に関係していることがよくわかる。

若田部昌澄『危機の経済政策』（日本評論社、2009年）

Wakatabe, Masazumi, Japan's Great Stagnation and Abenomics: Lesson for the World (PalgraveMacmillan, 2015)

若田部昌澄「歴史—『大自動化問題』論争の教訓」山本勲編著『人工知能と経済』（勁草書房、2019年）、305-338頁

若田部昌澄「金融政策の未来：貨幣経済学の歴史に学ぶ」景気循環学会第38回大会における基調講演、2022年12月3日。https://www.boj.or.jp/about/press/koen_2022/ko221203a.htm

評価方法 Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	0%	小論文と平常点評価を持ってかえる。
レポート Papers	20%	学期末に提出する小論文の質。経済学史と何らかの関連付けがある限り、題材は学生が自由に選択できる。ただし、事前に講師と相談することが望ましい。
平常点評価 Class Participation	80%	出席は必須。無断欠席はしないように。日頃の発表、議論への参加度で評価する。
その他 Others	0%	該当なし。

演習を希望する学生には以下のことを望みます。

1. 担当講師について、あらかじめ知識を得ておくこと。例えば、参考文献に挙げている本を読んでもらうと、講師についての理解が深まるでしょう。
2. 英語に苦手意識を持っていないこと。
3. 演習は自習ではなく、共同作業です。講師や他の受講生とコミュニケーションが取れることが大事です。
4. 経済学そのものをしっかりと学ぶこと。ミクロ経済学入門、マクロ経済学入門をすでに取得していることが望ましい。また、経済学史と計量経済学を受講することを強く薦めます。
5. 知的好奇心を持っていること。

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>